

東日本大震災関連

被災地の子供のメンタルケアに関する意見交換会

日米の医療関係者ら40人が集結

今年3月に起きた東日本大震災の復興支援者らによる日米交流会が10日、ニューヨークで開催された。

アメリカン航空、在米アジ



日米多くの医療・保健・福祉関係者が集まり意見を交わした。10日、ニューヨーク（提供写真）

ア人連合、プロスペクト・ヒル財団、米国日本人医師会協賛の下に開かれた同会は、ボ

ストン子供病院でソーシャルワーカーとして活動する江津秀恵さんと宮城県子ども総合センターの児童精神科医、本間博彰さんによって企画された「Disaster Psychiatry Outreach」研修旅行。関係者らによって、被災地の子供のメンタルケアに対し、日米間でどのような協力が必要となるかが議論された。

当日は、自身も同震災の被災者でありながら、宮城県や岩手県の専門家として活躍する人や、日本各地から被災地で子供のケアに従事する医療・保健・福祉関係者ら、さらには米国から被災地入りし、救援活動・支援を行う人など、18団体から約40人が集結。議題に対してさまざまな意見が交わされ、日本人関係者らによる一層の復興支援、そして米国からの継続的な支援の意思も表された。